

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和元年度病害虫発生予察特殊報第2号について

霧島市のミニトマトでクロテンコナカイガラムシ *Phenacoccus solenopsis* Tinsley の発生が認められ、特殊報第2号を発表したので送付します。

なお、病害虫防除所ホームページ ([www.jppn.ne.jp/kagoshima](http://www.jppn.ne.jp/kagoshima)) にも掲載しています。

## 病害虫発生予察 特殊報第2号

令和元年8月23日  
鹿児島県病害虫防除所

1 病害虫名 クロテンコナカイガラムシ *Phenacoccus solenopsis* Tinsley

2 寄主植物名 ミニトマト *Solanum lycopersicum* L. (ナス科)

### 3 発生地および同定

- (1) 発生確認 令和元年7月11日
- (2) 発生確認地域 鹿児島県霧島市
- (3) 同定機関 門司植物防疫所

### 4 発生状況及び被害状況

令和元年7月11日、霧島市のミニトマトの施設栽培1ほ場で、カイガラムシ類の発生が認められ、すす病(黒いすす状のかび)により果実等に汚れを生じていた。門司植物防疫所に同定を依頼した結果、8月8日にクロテンコナカイガラムシ *Phenacoccus solenopsis* Tinsley と確認された。本県における農作物での被害は初確認である。

### 5 病害虫の特徴

- (1) 形態  
雌成虫は翅を欠き、体型は楕円形である。体長は通常3~4mm程度であるが、5mmを超えることもある。背面には白色のロウ質物を分泌し、全体としては白くみえるが、ロウ質物は亜中央部で薄くなるため、2齢幼虫以降は2対の黒斑があるようにみえるのが特徴である(図1)。
- (2) 寄主植物  
広食性でトマト、ミニトマト、ナス、オクラ等53科154種の植物に寄生する。
- (3) 被害  
本種が多発生すると作物の生育が阻害されるほか、本種が分泌する甘露によって発生するすす病により果実等に汚れを生じる(図2)。
- (4) 生態  
雌成虫はワタ状のロウ質物の卵のう内に平均350個程度産卵する。繁殖様式は、交尾後産卵する有性生殖と、雌成虫が交尾せずに産卵する単為生殖の両方が知られている。1齢幼虫は数日間、卵のう内で過ごした後、摂食のために歩いて分散する。雌は2齢、3齢幼虫を経て成虫となる。雄は2齢幼虫の終わりにまゆを作り、前蛹、蛹を経て羽化し、1対の翅を持つ成虫となる。単為生殖個体群における1世代の発育期間は平均70日程度である。
- (5) 分布  
国内においては、佐賀県、福岡県、沖縄県、愛知県、山口県、高知県で発生が報告されている。海外においては中国、台湾、タイ、インドネシア、インド、エジプト、パキスタン、トルコ、オランダ、西アフリカ、北~南米、オーストラリアなど広範囲で発生が報告されている。

## 6 防除対策

- (1) 茎葉（特に成長点付近）への寄生やすず病の発生等，早期発見に努め，発生を確認した場合は，寄生部位を除去して，土中に埋めるなど適切に処分する。
- (2) 雑草は本種の発生源となる恐れがあるので，ほ場内及び周辺の除草対策を徹底する。
- (3) 施設栽培では栽培終了後にスリップス等の害虫防除を兼ねて蒸し込みを行う。
- (4) 令和元年8月現在，ミニトマトで本種に登録のある農薬はない。

## 7 参考文献等

- (1) 植物防疫所病害虫情報第108号(2016) 最近話題となっている病害虫 クロテンコナカイガラムシ (*Phenacoccus solenopsis* Tinsley)
- (2) 佐賀県(2013). クロテンコナカイガラムシ（仮称）の発生について. 平成25年度病害虫発生予察特殊報第1号
- (3) Tanaka H., T. Uesato. (2012) New records of some potential pest mealybugs (Hemiptera:Coccoidea:Pseudococcidae) in Japan. *Applied Entomological and Zoology* 47(4): 413-419



図1 ミニトマトに寄生した成幼虫



図2 ミニトマトの果実でのすず病の発生